第 75 回番組審議委員会議事録

1. 開催年月日　　令和 7 年 12 月 17 日(水)午前 10：30～11：30

2. 開催場所　　和歌山県田辺市宝来町 8-21　泉ビル 2 階

3. 委員の出席　　委員総数：6 名

出席委員：4 名

出席委員の氏名：小倉拓、橘智史、

辻強志、安達克典

欠席委員の氏名：野村悠一郎、猪野竜太

放送事業者側出席者氏名：安田豊、洞周作、

生田奈穂、濱田由希子

欠席者氏名：安田正、大﨑健志

議題　1）局側挨拶（現状報告）

2）議題

□番組聴取

11 月 6 日（木）20：00～特別番組「耳で聞くパンフレット！弁慶

シネマ・ナイト」の放送内容一部と、11 月 9 日（日）11：10～「こいからどこ行く日曜日」内で放送した俳優兼監督の斎藤工さんのインタビュー音声をご聴取、ご意見・ご感想

3）その他番組への質問・意見

4）今後の放送に対する意見・要望

5）その他

局側挨拶・報告

1. 局側挨拶

洞：年末のお忙しい中にお集まりいただき誠にありがとうございます。前回から今日までの取り組みとして中学生の職場体験の受け入れがございました。上秋津中学校と田辺中学校の生徒が来局し、収録や番組制作の体験を行い、地域の子どもたちにとって貴重な学びの機会となりました。10 月には弁慶まつりでの「弁慶記組曲」演奏が予定されておりました。弊社が取り組む「吹奏楽プロジェクト」から生まれた音楽が地域の舞台で演奏される初めての機会になる予定で、二公演を決定しておりましたが、生憎の天候により中止となりました。しかしながら、関係者から「来年こそはぜひ」と前向きなお声をいただき、翌年の実現に向けて引き続き調整を進める意向が示され

ました。弁慶まつりでの演奏は叶いませんでしたが、県総合文化祭では田辺高校を含む四校の吹奏楽部がこの組曲を演奏し、プロジェクトとして目指していた「地元の中高生が演奏してくれる文化を作る」という大きな目標に向け、大きな一歩を踏み出すことができました。地元の若い世代がこの音楽を受け取り、舞台で演奏してくれたことは、局員一同大きな感動を覚える出来事となりました。また、JCBA 近畿コミュニティ FM 放送賞において、放送活動部門において最優秀賞を受賞することができました。これも日頃からご支援いただいている皆さまのお陰であり、深く感謝申し上げるところでございます。表彰関係で言いますと、保護司関連の「社会を明るくする運動」からも、これまでの継続的な協力に対し感謝状をいただきました。その他の活動としては、若鷲旗学童野球大会の実況中継、映画祭における監督インタビューおよび事前 PR の実施、放送外ではシオゴリキャンプの司会・音響スタッフとしての参加など、多岐にわたる地域協力を行ってまいりました。

11 月には局のホームページも全面リニューアルを行い、より見やすく使いやすい形へ改善しております。まだご覧になっていない方は、ぜひ一度アクセスしていただければ幸いです。

今年も多くのご支援をいただき、大変実りある一年となりました。今後とも地域に寄り添い、皆さまとともに歩む FM TANABE であり続けたいと考えております。どうぞ引き続きよろしくお願い申し上げます。

2. 議題

～番組聴取～

辻：映像表現を扱う映画祭の内容を、音声のみのラジオで伝えることは非常に難しいのではないかと感じた。どこまで内容に踏み込み、どの程度来場を促す情報を盛り込むのか、番組設計には相当な悩みがあったと推察する。インタビューの「量」や「尺」の基準について詳しく知りたい。第 19 回という歴史にも驚いた。

洞：局員の大﨑がプロデューサーとして映画に造詣の深いパーソナリティを起用し、事前に作品を視聴しておくことで自然と質問が生まれる流れを作りました。監督一人につき概ね 10 分前後、地域リスナーが自分事として捉えやすいよう、“田辺市の印象”や“来訪経験の有無”、“作品の魅力”と“地域性との関連”などを意識的に質問項目へ盛り込みました。

小倉：イベント終了後に「開催されました」と報じられても集客には

意味がなく、事前に繰り返し告知する今回の取り組みは非常に良い。短編作品は気軽に観られる強みがあるため、「ついでに立ち寄れる」「30 分なら 1 本だけ観てみようか」といった導線作りをもっと打ち出していくと良いのではないか。映画祭はマニアックな側面があり、ライト層へのアプローチが求められると思う。

橘 : 映画祭には観光協会の立場として関わっており、開会式やコンペティションには参加しているものの、実際の上映作品を観る機会がこれまで無かった。今回の特番の内容を聞き、もし事前にこの放送を聞けていれば、観てみたいと思える作品があったかもしれないと感じた。一般の市民に対しても、映画祭への関心を喚起するきっかけとして、今回の放送は良い効果を持つのではないかと考える。今後は自身も含め「もっとアンテナを張ろう」と思える内容であった。

安達 : 当初からの映画祭の歴史を見守ってきた立場として、今回の第 19 回開催には非常に感慨深いものがある。今年は 180 本を超える応募作品が集まり、斎藤 工監督の来場が実現したことは、映画祭の大きな成長を象徴している。一方で、現代は若い世代を中心にテレビ離れが顕著であり、映画と FM ラジオが結び付く今回のような企画は、新しい広報手法として大変有意義だと感じた。事前特番による告知

の強化は、来場者増にも寄与したのではないか。また、来年の第 20 回は文化会館が工事に入るため開催場所の確保について懸念を持っている。複数会場同時上映のような代替案の可能性も考えられるが、記念すべき節目の年として、より良い形で開催されることを期待したい。

生田：事務局の方から来場者数が微増したとご報告いただきました。我々も少しは貢献出来たのではないかと手応えを感じています。

安田：田辺・弁慶映画祭の知名度は全国的にも高く、特に若手映画監督の登竜門としては関東でも認知されています。規模のみで言えば東京国際映画祭が上ですが、「若い才能がまず目指す映画祭」という点で弁慶映画祭の存在感は年々増しています。今回は和歌山ゆかりの作品が少なかった印象があるが、それは映画祭がより全国規模の位置付けになっている証拠とも言えます。安達さんの仰る通り来年は会場選定が大きな課題になるでしょうが、これをきっかけにさらに盛り上がる形になることを私たちも期待しています。

生田：ご意見ありがとうございました。続いて、斎藤 工さんへのインタビュー音声をお聞きいただきます。収録は 11 月 7 日、開会式およびレセプションパーティーの際に実施したものです。囲み取材の

ためシャッター音など雑音が多く、聞きづらい箇所が生じています。

なおこの音声は 11 月 9 日（日）昼の番組で放送したものです。

～インタビュー音声聴取～

安達 : 斎藤さんのコメントは非常に内容が深く、放送に乗せることが出来てよかった。映画人としての姿勢だけでなく、熊野に関する知識や関心の高さにも驚かされた。若い世代にも熊野の魅力が広がるきっかけになる可能性を感じる。地元に理解のある著名人がいることは大変ありがたく、今回の企画は良い機会になったのでは。

橘 : 会場では女性ファンの熱気が非常に強く、現場の盛り上がりを実感した。一方でインタビュー内容そのものは真面目で誠実さが伝わり、地元としても嬉しく思う。

小倉 : ただ、音声については改善の余地がある。シャッター音など雑音が多く、聞き取りにくい部分があった。今後は単一指向性のマイクなど、より適した録音機材の導入を検討すべきでは。

辻 : 確かに、映像がある場合はシャッター音が気にならないが、音声のみの場合は非常に目立つ。録音環境やマイク選択など、技術面の工夫が今後必要だと感じた。

小倉 : AI ノイズ除去の活用、EQ（イコライザー）で不要な周波数帯

を削る方法をとってみてはどうか。普段はどうしているのか？

濱田：音声編集ソフトや映像編集ソフトでノイズ除去をしています。今回の音声も編集しましたが、これが限界でした。

辻：田辺工業高校でも映像編集ソフトを使用しているが、教員より生徒たちの方が上手に使っている。雑音を拾わないマイクやソフトを生徒たちの手で開発するのも面白い。

洞：ぜひともお願いいたします。

生田：皆さま貴重なご意見をありがとうございました。

3.その他番組への質問・意見

　特になし

4.今後の放送に対する意見・要望

　特になし

5.審議機関の答申または改善意見に対して採った措置及びその年月日

　特になし

6.審議機関の答申または意見の概要の公表方法

内容：審議内容について公表

方法：ホームページ掲載（http://www.fm885.jp/）

7.その他参考事項

特になし